

先生なら、 どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

真面目な生徒のルール違反。
見て見ぬ振りが
できなかつた私が迎えた
想定外の結末

鳥取県立鳥取東高校 福島卓也

ふくしま・たくや ● 同校に赴任して1年目。教頭。
鳥取県教育委員会認定「エキスパート教員(高校英語)」
として、鳥取県の英語教育をけん引してきた。
「生徒に化学反応を起こす触媒が教師である」という
信念の下、生徒と向き合い続ける。

10 年ほど前のことです。昼休みに、学年主任を務める2
学年の教室が並ぶ廊下を歩いていると、1人の女子生
徒が、校内では使用禁止の携帯電話を、机の下で隠すようにし
て操作しているのが目に入りました。授業態度がよく、ルール
違反とも無縁だったその生徒の意外な行動を、私は一瞬「見な
かったことにしよう」としました。しかし同時に生まれた「なぜ、
あの子が？」という思いが、私を教室に引き込みました。

あと1メートルもないところまで近づいて来た私に気づいた
生徒は、少し困ったような表情を浮かべただけで、黙って私に
携帯電話を差し出しました。ひと言「預かるね」と私。無言で
うなづく彼女。私は鮮やかなブルーの携帯電話を手に職員室に
戻り、当時のルールに従って、3日間保管しました。

3日後、生徒が携帯電話を引き取りに職員室にやってきました。
面談室に移動し、携帯電話を差し出しながら私は、「携帯電
話のない生活はどうだった？」と尋ねました。携帯電話を預
かった生徒には、返却時に必ずかけていた言葉でした。

次の瞬間、生徒は押し止めていた感情があふれ出たよう
な激しさで泣き出しました。私は驚きつつも、生徒の
言葉を待ちました。突然の涙には何か理由があるはずだと思っ
たからです。1分ほど経ち、落ち着きを取り戻した生徒は、気
持ちの整理がついたかのように語り始めました。最近、友人と
メールで連絡を取り合うようになったが、連絡が来たらすぐに
返事をしないといけない雰囲気になり、家でも学校でも携帯電
話が気になって仕方がなかった。このままではいけないと思っ
たけれど、どうすることもできないでいたところを先生に見つ
かってしまったと。生徒は意を決したような表情で続けました。
「3日間携帯電話から離れて、気持ちがすごく楽になりました。
今日この後友達には、家や学校にいる時はすぐには返事はでき
ないと、はっきり言います」。そして、「すみませんでした」で
も「もうしません」でもなく、「ありがとうございました」と言っ
て、面談室から出ていきました。

遠ざかる生徒の足音を聞きながら、私は怖くなりました。も
しもあの時、私が「真面目な子だから」と見逃していたら、彼
女は今も苦しんでいたかもしれない。教師として、目の前の生
徒を見ることは当然だが、今日に見えている生徒の姿は、必ず
しも内面と一致した姿であるとは限らない。生徒を見るとはど
ういうことなのか。私は面談室で独り、自問を続けていました。

一瞬「見なかったことにしよう」と思った福島先生が
足を止めたのは、たまたまのことだったのか？ それ
とも、何か理由があったのか？ 本エピソードの詳細
が読めるウェブオリジナル記事を、ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article17074/>

